

トルコ・ガジアンテップあれこれ

2011年に始まった騒乱・内戦の長期化に苦しむシリアを支援するための方策を検討するために、トルコ・ガジアンテップに約1ヶ月滞在した。仕事の内容については別の機会に譲るとして、ここではガジアンテップあれこれを紹介する。

ガジアンテップはトルコ・シリア国境から約50km、シリア第2の都市・アレppoからは直線距離にして約100kmという近さであるのに、内戦によって多くの難民を出しているアレppoとは、対照的に平和なガジアンテップ、両者の間のあまりの違いに改めて複雑な思いがこみ上げてくる。

古くは Aintap (Antep) と呼ばれ、名前にアラビア語の「泉“Ain”」が含まれることから、水や農業が連想される町である。ガジアンテップの人口は約



ガジアンテップ城の外観

130万人、トルコで6番目の大都市である。街中には路面電車も走っているという近代的な一面もあれば、ローマ時代のモザイクを集めた博物館もある。また、6世紀ビザンツ帝国の時代に建設されたというガジアンテップ城や、城の周辺にあるハマムと呼ばれる公衆浴場や歴史を感じさせる旧市街の街並み、打ち出しで銅製品を作る職人さんたち、お土産屋さん等々、シリアのアレppoに通じる部分が多く見られる。

ところでこの程度の規模の都市ならば、中華料理店の一つや二つはありそうなものだが、何と一軒もない。あるのはケバブ等のトルコ料理店がほとんどである。トルコ料理は世界三大料理の一つと言われるほどで、いろいろ



煮込み料理とサラダ、アイラン

とおいしい料理がたくさんあるが、その中でも大衆食堂で食べる定食の「煮込み料理」がとてもおいしくて、毎日食べても飽きない。煮込みの中身はオクラ、豆類、

ジャガイモ、ナス等の野菜をトマトで煮込んだものが多い。羊肉や鶏肉の入っているものもある。サラダやご飯(ピラウ)、アイラン(飲むヨーグルト)もついてくる。

他に食べ物としてはガジアンテップ名物のバクラヴァというスイーツが有名で、街中の至る所に専門店がある。また、ピスタチオも名産品で、アーモンド、クルミ、干しぶどう等と一緒に並べているナッツ屋さんも多い。



ナッツ屋さんの店先に

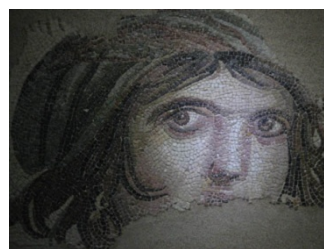
ところで、ガジアンテップに限らず、建物の屋上によく見られるのは「太陽熱温水器」で、トルコでは衛星放送のアンテナ、煙突と



屋上の太陽熱温水器

並んで「屋上3点セット」と呼ばれているようだ。トルコでは、水力、風力、地熱等の再生可能エネルギーの利用を進めようとしており、2023年までに全エネルギー量の30%にすることを目標としている。一方、石油は輸入に依存していて、ガソリン代は5リットル(約250円)と日本以上に高い。太陽熱温水器も自然の恵みを日々の暮らしに活かしていこうという知恵の表れである。

さて今回の滞在中には、ガジアンテップの街からアレppoや他のシリアの街並みや、そこでの生活を思い出すことが多かった。シリアの国内や街並みが、このような平和な日々を取り戻すのはいつになるのだろう。



ガジアンテップのシンボル、モザイク博物館の“Gipsy Girl”



ちょっとうれくなる EFES の看板 (お酒屋さんです)

(2014年5月湖東)